

福祉サービス第三者評価 評価結果

【保育所】

バオバブ霧が丘保育園

横浜市緑区霧が丘 3-25-1

運営主体: 社会福祉法人 バオバブ保育の会

実施概要	1 ページ
総合評価 (評価結果についての講評)	2 ~ 3 ページ
評価領域ごとの特記事項	4 ~ 5 ページ
分類別評価結果	6 ~ 16 ページ
利用者家族アンケート分析・集計結果	17 ~ 24 ページ
利用者本人調査分析	25 ~ 26 ページ
事業者コメント	27 ~ 28 ページ

2009 年 1 月 21 日公表

実施機関: 特定非営利活動法人 市民セクターよこはま

実施概要

事業所名	バオバブ霧が丘保育園（保育所）	
報告書作成日	2008年12月26日	評価に要した期間 8ヶ月間
評価機関	特定非営利活動法人 市民セクターよこはま	

評価方法

<p>1、自己評価</p> <p>実施期間 2008年4月22日～2008年9月3日</p>	<p>常勤・非常勤職員とも参加の職員会議で自己評価票を配布し、評価機関からも趣旨・記入方法を説明し、個々に記入し提出した。</p> <p>各個人が記入のものをもとに、総務が集計した。</p> <p>運営委員会で項目をチェックし、ポイントを絞った。</p> <p>常勤・非常勤職員とも参加の職員会議で、グループごとに項目について話し合った。</p> <p>グループ討議の報告会を行い、運営委員会で最終的な評価を行った。</p>
<p>2、利用者家族アンケート調査</p> <p>実施期間 2008年9月16日～2008年9月29日</p>	<p>全園児の保護者(88家族)に対して、保育園側からアンケート用紙を手渡して配布した。</p> <p>各保護者より、返信用封筒で、評価機関にあてて無記名で返送してもらった。</p>
<p>3、訪問実地調査</p> <p>実施日：第1日 2008年10月31日 第2日 2008年11月7日</p>	<p>[第1日]</p> <p>午前：各クラスで保育観察。</p> <p>昼食：園児と一緒に食べながら、保育観察。</p> <p>午後：書類調査。</p> <p>園長・総務・ブロックリーダーに面接調査。</p> <p>夕方は、降園の様子を観察。</p> <p>[第2日]</p> <p>午前：朝は登園の様子を観察。その後、各クラスで保育観察。</p> <p>昼食：園児と一緒に食べながら、保育観察。</p> <p>午後：各クラスの保育士、栄養士、看護師、非常勤保育士に個別に面接調査。</p> <p>その後、園長・ブロックリーダーに面接調査。</p> <p>最後に意見交換を行い、終了。</p>
<p>4、利用者本人調査</p> <p>実施日：第1日 2008年10月31日 第2日 2008年11月7日</p>	<p>観察調査は、調査員が各クラスに分かれて実施し、戸外・園外での活動も観察。</p> <p>幼児を中心に、観察調査時および昼食時に、会話の中で適宜聞き取りも実施した。</p>

総合評価（評価結果についての講評）

【施設の概要】

バオバブ霧が丘保育園は、2006年（平成18年）4月に横浜市から民間移管され、社会福祉法人バオバブ保育の会（本部：東京都多摩市）の運営となりました。定員は0歳児から5歳児までを対象に106名で、平日は7時から20時まで、土曜日は7時から18時30分まで開所しています。保育理念“子どもたちが、1.自分を大切に思える人 2.ひととのちがいを受けとめられる人 に育てられることを願って、保護者の方々と協力して子育てを進める”を「私たちの願い」として掲げ、日々の保育に取り組んでいます。法人は、1972年（昭和47年）に設立され、現在当園のほかに東京都多摩市・稲城市で3園を運営しています。

当園は、JR 横浜線「十日市場」駅からバスで10分、広い霧が丘住宅団地の中にあります。大きな公園や緑地に囲まれるなど、自然環境には大変めぐまれています。園舎は、1982年（昭和57年）3月に建築の木造平屋建てです。園庭は広く、各保育室は南に面して明るい造りになっています。

高く評価できる点

1、子どもたちは、自然の中でのびのびと活動しています

子どもたちは、いろいろな自然を体験しながら、のびのびと元気いっぱい園生活を楽しんでいます。

室内の自由遊びでは、幼児クラスでは積み木、ままごと、ブロック、かるたとりとそれぞれ好みの遊具を取り出して楽しめます。子どもたちは、お互いにルールを尊重しながら楽しんでいるようです。一人で絵描きや絵本読みに熱中している子どももいます。乳児クラスでは、積み木、ぬいぐるみ、ままごと、手作り絵本などを、それぞれが保育士の見守りの中で楽しんでいます。

広い園庭に出ても、子どもたちは元気いっぱい遊び回っています。三輪車、ジャングルジム、滑り台、木登り、大きな木の枝にロープを垂らしてのブランコ遊びと、乳児から年長児まで、それぞれ思い思いの遊びに2、3人から5、6人のグループになって活動しています。素足でかけっこしている子どももいます。砂場に穴を掘って水を貯め、素足で入るなど、楽しそうなドロンコ遊びもあります。

子どもたちは、散歩のときはまた一層活発になり自然を体験しています。1歳児クラスも公園の小高い丘に声を掛け合いながら登ります。頂上では草の実やどんぐりを探し、バッタを採ります。散歩道の途中では小川の淵を歩いたり、また、近所のおばさん、子どもや犬に声をかけたり、歩道橋の上から見るバスやトラックに歓声を上げています。

食事は、どのクラスもおしゃべりいっぱい、にぎやかです。そしてよく食べます。食事の量について本人の気持ちをくんでいることや、保育士の言葉がけもあり、好き嫌いのある子どもは少なくなっているようです。何度もおかわりする子どももいて、食事を本当に楽しんでいます。

基本方針「戸外の陽の光を感じ、自然と友だちになれるように」「子どもたち一人一人が生活の主人公になれるように」「いろいろな人と共感できる心が育っていくように」が実践されています。

2、職員は、みんなで新しい園作りに楽しく取り組んでいます

子どもたちに接するとき、保育士たちは自然な形で子どもの様子や行動を見守っています。

室内では、子どもたちの今やりたいことを優先させるなど、子どもたちの自由な遊びや興味・関心を尊重し、見守り、見つめ、引き出しています。例えば子どもたちの遊びの中から“とんぼレストラン”（お店屋さんごっこ）が生まれました。お客さんの3歳児クラスには大好評のようでした。運動会のプログラムにも、保育士の観察力と企画力が活かされているようです。

園庭では子どもたちのそばにいて手助けし、見守っています。特に木登り、ロープのブランコ、鉄棒、高い滑り台では、けがのないように必ずそばについています。

職員は、保育の理念や基本方針の実践に向かって、職員会議、連絡会議や乳児・幼児ブロック会議など

で夜遅くまで話し合いをしています。職員同士は対等な立場で意見を出し合い、またその姿勢は一生懸命でもあります。楽しく自然体に取り組めていることが特徴です。プール開きでのどじょうすくい、園庭での「さんまの会」や野焼きパン、園外活動やお泊り保育などの企画には、新しい保育園作りへの思いが込められていると思われます。

基本方針「一人一人が園生活を無理なく楽しく送れるように」「体験を通して、生きる力が育っていくように」「楽しい雰囲気の中でイメージを広げられるように」が実践されています。

3、保護者との交流・連携の強化に向け、努めています

当園は、保護者との緊密な関係の構築、信頼関係作りに力を注いでいます。

毎月発行される園便り、クラス便りでは、写真やイラスト入りで子どもたちの様子や活動状況が生き生きと紹介されています。また、保健だより、調理室からのお手紙「MOGUMOGU レター」も園の姿を伝えています。園長はじめ保育士についての囲み記事は、園を身近に感じさせる内容になっています。

保育士は降園時に、保護者にできる限りその日の子どもの様子を伝えるように努めています。利用者家族アンケートの自由記入欄には“いつも細やかに様子をみてくれて感謝しています”“先生方がとても生き生きと子どもの様子を語ってくれます”など感謝の記述が見られます。

また、保護者懇談会、個人面談、さらに園長を囲む会などは、保護者からの要望を聞き、情報の共有化を図る上で有効な場となっています。園では1年を通して保護者の保育参加を受け入れていて、保護者が子どもをまた違った視点で理解し、子育てのヒントを得るよい機会になっています。

さらに、園と保護者会との良好な連携は、夕涼み会、お楽しみ会や運動会をより充実したものにしています。今年は、「ワークショップ」との名称で保護者と共同で乳児の砂場、ベンチやテーブルを製作することになりました。

園は、保育理念の中にある「保護者の方々と協力して子育てを進める」に向けて着実に歩んでいます。

改善や工夫が望まれる点

1、マニュアルなどの整備・周知と記録の整備を

当園は、開設時(2006年4月)に各種の業務運営マニュアルを整備しました。衛生管理や感染症などについては、その後の社会環境の変化を踏まえて内容を追加してきました。

ただマニュアル類の中には、まだ内容が不十分なものや、周知が徹底されていないものが見受けられます。例えば、けがについての記録はヒヤリハットも含めて記録としてまとめ、怪我の防止に役立てていますが、安全管理のマニュアルはいくつかに分かれている状況にあります。また、安全管理や個人情報保護について全職員への周知を徹底すること、関係する外部の組織や機関との連携についてより明文化した形で整備することは、職員の理解の下での確実な業務の実行につながります。

今後、関係する業務運営マニュアルなどをさらに整備し、職員へ周知を図ること、また、保護者からの相談記録等、必要な記録類の整備についても検討することが望まれます。

2、園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけを

現在、園は公立保育園から民間移管して3年目で、以前からの地域との交流を活かしつつ新しい関係作りに努めているところです。

園では、園庭開放や育児講座の開催など、地域の子育て支援サービスを提供しています。また、夕涼み会、運動会等の園行事への地域住民の招待、近隣の高等学校や中学校との交流、地域のレクリエーション施設の利用、さらに地域自治会への加入など、着実に地域との交流・関係作りに努めています。

今後、ボランティアグループや福祉施設等の地域の団体や機関とのさらなる交流、地域の子育て支援グループとの情報交換・連携など、一層の地域への関わりを通して、地域に向かったの開かれた運営について検討することが望まれます。

評価領域ごとの特記事項

かながわ福祉サービス第三者評価推進機構が定めた「評価領域」に則って、記載しています。

1、人権の尊重

- ◇ 保育の理念「子どもたちが、1.自分を大切に思える人 2.ひととのちがいを受けと止められる人 に育ってくれる事を願って、保護者の方々と協力して子育てを進める」や、保育の基本方針「子どもたち一人一人が生活の主人公になれるように」などは、子ども本人を尊重したものになっています。
- ◇ 守秘義務の遵守、個人情報の取り扱いに関しては明文化して、職員に周知を図っています。さらなる徹底が望まれます。また、ボランティアや実習生にも、オリエンテーション時に説明しています。
- ◇ 児童虐待については、実体験が乏しいこともあり、まだ職員間で十分な共通理解はできていません。今後、園内研修等を通して虐待の定義や対応法について習熟することが望まれます。

2、意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供

- ◇ 保育の理念・基本方針は、子どもの自主性・主体性を育むものとなっています。園では子どもが生活の主人公になれるように、またさまざまな体験を通して生きる力が育っていくように、保育の環境作りに努めています。
- ◇ また、園庭での遊びや散歩などの園外活動を通して、自然の中で身体をいっぱい動かして遊び、身体を動かすことの楽しさを体験できるように努めています。
- ◇ 子どもたちは散歩の際に地域の人々とあいさつを交わすほか、近隣の施設を利用するなどを通して、地域の人々と交流しています。

3、サービスマネジメントシステムの確立

- ◇ 保育計画は、保育の理念・基本方針に基づき、保護者の状況も考慮して作成しています。
- ◇ 指導計画の作成・評価・見直しにあたっては、職員会議、カリキュラム会議および連絡会議を通して、全職員がかかわり、子どもの状況に応じて対応しています。
- ◇ 保護者が第三者委員に直接苦情を申し立てることができるように、「園のしおり」に記載して保護者へ伝えるとともに、事務室前に掲示しています。また、事務室前には「ご意見箱」を設置して、保護者から意見や要望を出しやすいようにしています。
- ◇ 健康管理、衛生管理、安全管理等に関する各種マニュアルを整備して、全職員に周知徹底を図っています。記録の整備やマニュアルの周知に一部不十分な点も見られますので、引き続き努力が望まれます。
- ◇ 事故や災害に対する緊急連絡体制も確立していて、定期的に避難訓練も実施しています。また、警察の協力を得て不審者対応の実技も行っています。さらなる徹底が望まれます。
- ◇ 保護者との緊密な関係の構築、信頼関係作りに力を注いでいます。今年は、「ワークショップ」との名称で保護者と共同で乳児の砂場、ベンチやテーブルを製作することになりました。

4、地域との交流・連携

- ◇ 地域の子育て支援ニーズを踏まえて、園庭開放、育児相談、育児講座、地域への絵本貸しなど、保育園の専門性を活かした子育てサービスに取り組んでいます。
- ◇ 園庭開放で来園する親子連れに園のお知らせを配布したり、夕涼み会や運動会に地域の方々を案内したり、また、区内の保育園や区役所が主催する子育て支援イベント「みどりっこまつり」に参画したりすることを通して、地域との交流・連携を進めています。今後、ボランティアグループ等の地域の団体とのさらなる交流や地域の子育て支援グループとの情報交換などを通して、地域との連携・交流の推進が望まれます。
- ◇ 近隣の高校とは、生徒が来園したり、逆に園児が高校を訪問したり、といった密接な交流があります。

5、運営上の透明性の確保と継続性

- ◇ 事業者として守るべき法・規範・倫理等は明文化され、職員に周知されています。
- ◇ 園長は重要な意思決定に際しては、関係職員および保護者会等から情報・意見を集め、また目的・決定（変更）理由・経過等を説明しています。
- ◇ 保育の理念、基本方針は、全職員に配布している「職員ためのしおり」に明文化して周知を図るとともに、保護者懇談会や園便りを通して、園の取り組みを保護者に紹介しています。
- ◇ 園長は、事業運営に影響のある情報を、法人の会議や区の園長会を通して収集・分析し、外部環境の変化に対応して、園の保育方針を実現するための取り組みを行っています。

6、職員の資質向上の促進

- ◇ 人材育成は、法人としての研修体制に基づき積極的に行っています。法人としての研修会、系列園相互の現地研修、課題を決めた園内研修も行っています。また、市や区の園外研修にも積極的に参加する体制としています。研修の成果は報告書にまとめ、職員会議で報告して情報の共有化を図り、互いの資質向上につなげています。
- ◇ 職員は、それぞれ目標を持って日々の保育に励んでいます。保育の理念や基本方針の実践に向かって、会議などで話し合い、楽しく園作りに取り組んでいます。なお、個々の目標に対する達成度の評価や次年度への反映についての仕組みは、さらに工夫が望まれます。
- ◇ ボランティアや実習生の受け入れは、マニュアルに基づいて行っています。実習生には総務が担当責任者となって指導を行い、実習中や終了後の意見交換により、実習の成果を確かなものにしていきます。

分類別評価結果

横浜市評価基準を使用しています。評価基準の詳細については、横浜市健康福祉局「福祉サービス第三者評価」のホームページ <http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/hyouka/index.html> を参照して下さい。








「ひょう太」の数の意味は以下の通りです。


3つ：高い水準にある 2つ：一定の水準にある 1つ：改善すべき点がある

評価分類の結果は、各分類を構成する1～6つの項目の評価結果で決まります。「ひょう太」が1つしかつかない項目が1つでもあると、その項目の属する評価分類の結果は「ひょう太」1つとなります。


評価領域 利用者（子ども）本人の尊重

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>- 1 保育方針の共通理解と保育計画等の作成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育の理念としては、「子どもたちが、1.自分を大切に思える人 2.ひととのちがいを受けとめられる人 に育ってくれる事を願って、保護者の方々と協力して子育てを進める」ことを掲げており、子どもを尊重したものになっています。 ・ 保育の基本方針は、(1)一人一人が園生活を無理なく楽しく送れるように (2)戸外の陽の光を感じ、自然と友だちになれるように (3)子どもたち一人一人が生活の主人公になれるように (4)いろいろな人と共感できる心が育っていくように (5)体験を通して、生きる力が育っていくように (6)楽しい雰囲気の中でイメージを広げていけるように となっています。 ・ 保育の実践の中で、理念や基本方針が十分尊重され、子どもの主体性が尊重されています。 ・ 保育計画は、保育の基本方針に基づき、保護者の就労状況を考慮して作成されています。また、地域の実態、周囲の環境を考慮して、指導計画を作成しています。 ・ 子どもの意見や意思をくみ取る努力をし、それを指導計画に反映しています。子どもたちの要望で、急遽その日の予定を変更するなど、計画には柔軟性を持たせています。
<p>- 2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入園前には、担任が保護者と面談をし、子どもを観察します。その結果は記録しています。 ・ 保護者に児童票、児童健康台帳、健康・生活についてのアンケートに記載してもらい、保管して日々の保育に活かしています。 ・ 短縮保育が必要な場合は保護者に十分説明し、就労の都合で難しい場合には、個別に対応しています。 ・ 0、1歳児クラスでは主担当保育者を決めていて、子どもも安心して甘えることができます。 ・ 乳児には個別の連絡帳があり、園での生活を保護者に詳しく伝え、家庭での様子を記入してもらっています。幼児についても、保護者が希望する場合には連絡帳を設け、使わない場合も口頭で丁寧な連絡をしています。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次年度に進級するときは、担任の1人が必ず持ち上げるように配慮しています。 ・ 年齢ごとに年間指導計画があり、1年を4期に分けています。月間指導計画を作成するときには、子どもの発達や状況に応じて前月の反省をし、見直しています。
<p>- 3 快適な施設環境の確保</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 清掃は、部屋、トイレ、沐浴設備、温水シャワーについて清掃マニュアルがあり、毎朝および汚れたらその都度掃除をしています。 ・ 陽光を十分取り入れるため窓に物を置かないようにしています。南向きに木のテラスがあり、特に0歳児のテラスは広々として、外気浴に最適です。真夏は西日が入るため、窓の外にゴーヤを植えて緑のカーテンとし、涼しく過ごせるようにしています。 ・ 0歳児の部屋は4つに区切られ、食べる、寝る、遊ぶ、おむつを替える場所が分けられ、月齢別に食事や睡眠がとれるようになっています。 ・ 1、2、4歳児の部屋も、間仕切りで分けたコーナーにゴザを敷いて、食事、睡眠、遊びの空間を分けるようにしています。 ・ ホールは跳び箱、マット、ピアノ、書棚が置いてあり、異年齢で走り回って遊んだり、全クラスの誕生会など行事に使ったりするほか、布団を敷いて3、5歳児の午睡の場所となっています。
<p>- 4 一人ひとりの子どもに個別に対応する努力</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 0、1歳児については個別指導計画、2歳児については3ヶ月ごとの個別配慮計画を作成しています。 ・ 幼児についても特別な課題がある場合は、ケース検討会議を開き、個別に対応しています。 ・ 個別の目標や計画は、子ども一人ひとりの発達状況に合わせ、保護者と相談しながら、柔軟に変更、見直しをしています。 ・ 個別指導計画に関して保護者に対する説明が不十分な点もあり、さらなる努力や検討が望まれます。 ・ 全園児に児童票があり、子どもや家庭の個別の状況や要望が記録してあります。0歳児には別に個人票もあり、日々の様子が記録してあります。 ・ 児童健康台帳には、入園後の子どもの成長発達の記録が記載されています。 ・ 子どもの記録内容は、全職員が共有できるようになっており、重要な申し送り事項は、進級時に伝達されます。
<p>- 5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特に配慮を要する子どもについては、年6回ほど、各クラス1名の職員、法人の研修センター長、大学教授が出席するケース検討会議で話し合い、記録しています。 ・ ケース検討会議で話し合われたことや研修で学んだ内容は、ほかの職員にも伝え、保育に活かしていますが、全職員で学習し話し合える体制を整えることが望まれます。 ・ アレルギー疾患のある子どもには、かかりつけ医の指示を受け、適切な対応をしています。食物アレルギーのある子どもには、献立表の配布の際に、除去食にはマーカーで個別に印を付けています。除去食や代替食を提供しており、間違えないようにお盆にのせていま

	<p>す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 外国籍など文化の異なる子どもに対しては、食事上の配慮など適切に対応しています。
<p>- 6 苦情解決体制</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第三者委員への連絡先や苦情受け付け担当者などを記載した「苦情解決の仕組みについての案内」を玄関や各保育室に貼り出しています。第三者委員には、運動会など園の行事の際に来てもらい、保護者に紹介しています。 ・ 玄関に意見箱を置き、保護者会、保護者懇談会、園長を囲む会などで、保護者の要望や苦情を聞く努力をしています。 ・ 自分で意見が表明できない園児には寄り添い、保護者にもなるべく声かけをするようにしています。 ・ 外部の権利擁護機関や相談機関との連絡体制を整え、保護者にも紹介することが望まれます。 ・ 保護者からの要望や苦情の過去のデータを記録し、解決に活かしています。

評価領域 サービスの実施内容

評価分類	評価の理由（コメント）
<p data-bbox="161 389 472 427">- 1 保育内容[遊び]</p> 	<ul data-bbox="595 259 1476 1447" style="list-style-type: none">・ おもちゃや教材等は、子どもたちが自分で自由に取り出せるように配置され、また、子どもたちの関心の程度や好みを考慮しながら配置・入れ替えを行うなど、子どもが主体的に活動できる環境構成となっています。・ 保育室内には、子どもが落ち着いて遊びこめるコーナー遊びのスペースが設けられています。・ 子どもたちはそれぞれ自由に、数人でままごと、カルタ、ブロックなどを、また、絵描き、紙粘土、絵本などの1人遊びを楽しんでいます。・ 園庭では、砂場遊び、滑り台、鉄棒、木登り、サッカーボール蹴り、三輪車などで遊んでいます。・ 大根、ほうれん草、ミニ大根、稲などの栽培を通して、子どもたちは収穫の喜びを味わい、食への関心を高めています。・ 子どもたちは散歩等で、日常的に地域の人々とあいさつを交わしています。また、園外活動により地域を知り、自然に触れる機会を積極的に設けています。・ 子どもの年齢や発達状況にあわせて自由な表現活動ができるように、紙、色鉛筆、クレヨン、粘土などの素材が、自由に使えるように配慮されています。・ 子ども同士のけんか等については、危険のないように見守りながら、子ども同士で解決ができるよう援助しています。・ 朝、夕方の時間外保育や、ホールや園庭での遊び、散歩などにおいて、異年齢の子ども同士が関わりを持てるように配慮しています。・ 散歩や屋外活動など、積極的な健康増進の工夫を行っています。散歩先の公園では斜面登りや小動物探し、園庭では、木登りや大きな木を利用したロープ遊びなど、自然を利用した遊びを工夫しています。

- 1 保育内容[生活]



- ・ 食事においては、盛りつけは少なめにして何度もおかわりをできるようにしたり、嫌いなものも少量を負担なく食べられるようにしたりなど、工夫しています。乳児においては、授乳や離乳食の際には、月齢の近い子ども同士と一緒にさせるなど、食事を豊かに楽しむ工夫をしています。
- ・ また、野菜を育てて収穫する、稲を育てて新米を炊く、園庭でサンマを焼く、野焼きパンを作るなどを通して、食事作りの楽しさを体験しています。
- ・ こどもの日、ひな祭り等の行事食を計画したり、園庭で栽培している大根、米などの収穫、いも掘りで収穫したさつまいもなどを食材として使用したりするなど、季節感のある献立に配慮しています。
- ・ 有機栽培の米を直接取り寄せたり、什器を木製にして、日本の文化を感じさせたりなど、食材や食器について配慮しています。
- ・ 栄養士や調理員も子どもと一緒に食べたり、定期的に食事の様子を観察したりして、子どもたちの食事の様子を把握しています。また毎回、残食の状態を調査・記録して、献立・調理の工夫に反映させています。
- ・ 毎月の献立表や食育に関わる情報を家庭へ配布しています。また、当日の給食のサンプルを正面玄関に展示するとともに、その月の人気のレシピをメモサイズの紙にまとめて、保護者が自由に持ち帰れるようにしています。
- ・ 子どもたちへの午睡は強要せず、眠れない子どもや眠りたくない子どもは、テラスなどで静かに過ごさせるよう柔軟に対応しています。また0歳児の場合、乳幼児突然死症候群を防ぐため、睡眠チェック表を付けています。
- ・ 子ども一人ひとりの排泄のリズムをとらえ、個人差を尊重しています。トイレトレーニングは、排泄の間隔があいてくると、保護者と相談しながら進めています。トイレで排泄できたときは、子どもを褒めて自尊心をのばすようにしています。

- 2 健康管理・衛生管理・
安全管理 [健康管理]



- ・ 健康管理に関するマニュアルに基づき、園児一人ひとりの健康状態を把握しています。また、必要に応じて園での子どもの健康状態を保護者へ、連絡ノートや口頭で伝えています。
- ・ 一人ひとりの健康診断・歯科健診の結果は台帳に記録し、健康診断の結果は特記事項のある場合は個別に保護者に連絡し、歯科健診の結果は、所定の様式に個別に記載し保護者へ伝えています。
- ・ 保育園として、健診結果に基づき嘱託医やかかりつけ医とどのように連携するかについては、今後の検討課題となっています。
- ・ 感染症等への対応に関するマニュアルに基づき、感染症等の疑いが生じた場合に対応しています。保護者へは園のしおりや、保護者への配布物で周知しています。

- 2 健康管理・衛生管理・
安全管理 [衛生管理]



- ・ 衛生管理マニュアルを作成し、流行性の病気が出やすい時期になる都度、職員間で話し合いを持ち、衛生管理への関心を深めています。
- ・ マニュアルに基づき清掃が行われ、清掃記録に日々記録することで園内外の清潔が保たれています。

- 2 健康管理・衛生管理・
安全管理 [安全管理]



- ・ 安全管理に関するマニュアルに基づき、子どものケガについては、軽傷であっても必ず保護者に状況を報告し、報告書に記録する体制としています。また報告書へは、ケガまでにはいたらなくても、その可能性があった事例についても記録するようにして、ケガの防止に努めています。
- ・ 外部からの侵入に対する対応策としては、出入り口の施錠、不審者等に対する緊急通報体制、警察の協力を得て不審者対応の実技など行っていますが、さらなる徹底が望まれる。
- ・ なお、地震等を想定した備品等の転倒防止などの安全対策については、まだ十分な状況には至っていません。

- 3 人権の尊重





- ・ 子どもの人格を尊重する姿勢で、子どもの気持ちや発言を受け入れられるように配慮しています。職員の心構えとして、子どもを呼び捨てにしないこと、子どもを尊重することなど、毎年の事業計画説明の際に確認しています。
- ・ 友達や保育士の視線を意識せずに過ごせる場所として、各保育室の一隅にはコーナーを設けています。また、子どもに威圧感を与えず一対一で話し合える場所として、ホールや事務室を用意するなど、必要に応じてプライバシーが守れる空間を確保できるような工夫がされています。
- ・ 園便りへの写真の掲載には保護者の了承を得るなど、個人情報の取り扱いについては、規定に基づき慎重に対応しています。また、個人情報に関する記録は、事務室の施錠できるロッカーに保管・管理しています。
- ・ 虐待が明白になった場合には、児童相談所などの関係機関と迅速に相談する体制を整えていますが、まだ、虐待の定義が全職員に周知している状況には至っていません。
- ・ 子どもに対して、性差への先入観による役割分業意識を植え付けないよう配慮しています。

- 4 保護者との交流・連携






- ・ 保護者に対して、「園のしおり」や保護者懇談会を通して、バオバブ霧が丘保育園の保育の理念や基本方針を説明しています。
- ・ また、園便りやクラス便りで、日常の保育の状況を伝えながら、バオバブ霧が丘保育園の保育の理念や基本方針が理解されるように努めています。
- ・ 幼児クラスでは、その日の子どもたちの活動状況をまとめた掲示により、乳児クラスでは、個人別の連絡ノートにより、その日の子どもの様子を保護者へ伝えていきます。同時に、保護者へ直接口頭で伝達したり、保護者と情報交換をしたりすることにも努めています。
- ・ 保護者と個別面談を年1回行っています。
- ・ 保護者からの相談に対しては、園として、適切に対応できるように職員に指導し、相談場所にも配慮をしています。また職員は、相談事項を園長と常に情報交換することとしています。
- ・ 毎月発行の園便りやクラス便りで、保護者へ保育の内容や行事内容を伝えていきます。年2回開催のクラスごとの保護者懇談会においては、スライドや写真を使って、保育内容や目的を分かりやすく説明しています。
- ・ 通年で保育参加を受け入れています。また、夕涼み会、お楽しみ会などの行事の際の参加も呼びかけています。
- ・ 保護者の自主的な活動（保護者会）へは、会場の提供などの支援を行っています。また、保護者会とは常にコミュニケーションをとりあっています。




評価領域 地域支援機能

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 緑区内の認可保育園合同の子育て支援イベント「みどりっこまつり」で、ポスター作り、園紹介、おやつ作りなどを行って、地域の子育て支援ニーズの把握に努めています。しかし、地域住民の施設に対する要望を十分に把握する段階には至っていません。 ・ 毎週木曜日開催の育児相談事業を通して、子育て支援ニーズを把握しています。 ・ 園庭開放は、毎週火、水曜日に実施しており、火曜日は専任の職員をおいています。園長・総務・0歳児担任の3人が、スタンプ押し、リース作り、絵本の読み聞かせなどを企画しています。 ・ 子育て講座は年2回実施しています。今年は、離乳食の作り方の講座を開催し、6名の参加者がありました。
<p>- 2 保育園の専門性を活かした相談機能</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 区内の子育て支援情報を紹介する「みどりっ子カレンダー」という小冊子（区役所発行）に、園庭開放、育児相談、お話し会、観劇、夕涼み会、運動会などの情報を掲載しています。 ・ 育児相談は毎週木曜日に実施し、電話でも随時受け付けています。 ・ なお現在は、相談内容に応じて関係諸機関・団体との日常的な連携が取れる状況には至っていません。




評価領域 開かれた運営

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育園の地域開放として、夕涼み会、運動会等に、園庭開放に来た人など地域住民を招待しています。このたび、自治会に加入しました。 ・ 近隣の中学校、高等学校からのボランティアを毎年受け入れたり、また園児が訪問したりするなどの交流があります。 ・ 保育の中で、近隣のケアプラザなどを利用しています。 ・ 散歩などで地域の人たちと接するときは、積極的にあいさつしています。
<p>- 2 サービス内容等に関する情報提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 法人や横浜市こども青少年局のホームページに園の情報をのせています。 ・ 園の基本方針や利用条件、サービス内容などについての問い合わせは、「園のしおり」に基づいて常時説明できるようになっています。 ・ 利用希望者には、園の様子を具体的に感じてもらえるように、見学することを勧めています。見学希望者には、保育に支障をきたさない範囲で柔軟に対応しています。
<p>- 3 ボランティア・実習の受け入れ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 受け入れのためのマニュアルがあり、それに従って、あらかじめ職員や子どもたち、保護者に受け入れについて説明しています。 ・ 中学校、高等学校からの職業体験ボランティア、および保育専門学校からの実習生を受け入れています。また、市民のボランティアグループが来園し、月1回のお話会を開催しています。 ・ 受け入れの担当者が決まっていて、記録も整備しています。 ・ ボランティアや実習の終了時に、反省会を行って意見や感想を聞き、園運営に反映させています。

評価領域 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 職員の人材育成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 園では、園運営に十分な人材構成であるかをチェックし、必要な人材の補充を行っています。また、園の理念・方針をふまえた保育が実施できるように、年度ごとの人材育成計画を策定しています。 毎年、テーマを定めて園内研修を行うとともに、外部の研修会への参加、系列園の研修会などにより資質の向上に努めています。また、研修の成果を報告書や会議により職場で共有し、活かしていますが、研修の成果を評価して、次の研修内容へ密接に反映する段階には至っていません。 非常勤職員にも常勤職員と同様の業務マニュアルを配布するなど、資質向上への取り組みを行っています。また、非常勤職員との懇談会を設け、働きやすい環境作りに努めています。
<p>- 2 職員の技術の向上</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 職員会議、ケース検討会議などにおいて、保育の見直しを行い、それを個々の職員のスキルの問題としてとらえ、自己評価を行っています。 工夫・改善した良い保育事例をもとに、一層の保育向上を目指した会議・勉強会を行っています。 ケース検討会議には外部の専門家の参加を得て、保育の技術の評価・指導等を受ける仕組みとなっています。
<p>- 3 職員のモチベーション維持</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 職員の経験・能力や習熟度に応じた役割が、期待水準として明文化されています。また、利用者の状況に応じて自主的に判断できるように、現場の職員に権限を委譲し、責任を明確化しています。 職員から業務改善の提案を受けたり、意見を聴取したりして、業務運営に反映しています。 園長は、個別の面接・懇談等によって職員の満足度・要望などを把握しています。

評価領域 経営管理

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 経営における社会的責任</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 組織や職員が不正・不適切な行為を行わないように、守るべき法・規範・倫理等は明文化し、職員に周知しています。 ・ 法人のホームページを通して、目指している保育について、食事についてなどの情報を積極的に発信しています。 ・ 牛乳パック、ペットボトルなどの遊具への再利用やゴミの減量化、クーラーや暖房器具の適正温度設定、グリーンカーテン事業としてゴーヤを育てるなど、リサイクル・省エネルギーの促進・緑化の推進などに取り組んでいます。 ・ なお、環境へ配慮したさまざまな取り組みを行っていますが、環境への考え方や取り組みを明文化した形で運営に活かされてはいません。
<p>- 2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育園の理念や基本方針は明文化し、職員に周知を図っていますが、理念や基本方針に関しての職員の理解状況について、園長が定期的確認まではしていません。 ・ 重要な意思決定をするにあたり、園長は保護者と意見交換を行っています。そして決定されたことについては、職員に対して、また保護者に対して、目的・決定（変更）理由・経過等を説明しています。 ・ 法人として、スーパーバイズのできる主任クラスの職員を計画的に育成するプログラムを策定しており、主任クラスの職員は、個々の職員の能力・経験にあわせた的確な助言・指導を行っています。なお、主任クラスに該当する「総務」「ブロックリーダー」は新しい職制であり、より有効に機能する仕組みに向けて、これからさらなる努力をしていくところです。
<p>- 3 効率的な運営</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園長は、理事会、系列4園の園長会、緑区園長会などを通して、事業運営に影響のある情報を収集・分析しています。重要な情報は幹部職員で構成する委員会、または職員会議で議論し、重要課題として取り組んでいます。 ・ 法人として、次代の組織・施設運営に備え、運営や保育の新たな仕組み、幹部職員の計画的育成に努めています。 ・ なお現在、園は中長期的な事業の方向性を定めた計画を作成していません。

利用者（園児）家族アンケート 分析

- 1、実施期間 2008年9月16日～2008年9月29日
- 2、実施方法 保育園から全園児の保護者に直接配付（手渡し）し、回答を依頼。
各保護者より、同封の返送用封筒で、評価機関あてに無記名で返送。
- 3、回収率 59.1%（88枚配付、52枚回収）
- 4、所属クラス 0歳児クラス...7人、1歳児クラス...8人、2歳児クラス...10人、3歳児クラス...8人、
4歳児クラス...9人、5歳児クラス...10人

ただし同一家族で複数名が園に在籍している場合は、下の子どものクラスについて回答。

文中の「満足」「満足度」は、「満足」「どちらかといえば満足」の回答を合計した数値、
「不満」は、「不満」「どちらかといえば不満」の回答を合計した数値です。

設問ごとの特徴

【問1】保育園の基本理念や基本方針について

保育目標や保育方針を「よく知っている」「まあ知っている」と答えた保護者は62%ですが、そう答えた保護者の100%が「賛同できる」「まあ賛同できる」と答えています。“自然な雰囲気、安心できる”“食育を大切にしているのは良い”という声がありました。

【問2】入園時の状況について

「見学の受け入れについて」は、“民間移管前で見学しなかった”などの理由で「その他」「無回答」が合わせて約30%あり、満足度が62%です。「入園前の見学や説明」と「園の目標や方針の説明」の満足度が70%台、「子どもの様子や生育歴を聞く対応」「1日の過ごし方の説明」「費用や決まりについての説明」は、80%台です。“民間移管の時期は不安があった”という意見もありますが、“面接時には、親切で柔軟な対応をしてもらった”という声も多くあります。

【問3】年間の計画について

「年間の保育や行事の説明」は、満足度94%です。「保護者の要望が活かされているか」は83%ですが、“要望がない”“よく分からない”という「その他」回答が10%強ありました。

【問4】日常の保育内容「遊び」「生活」について

「遊び」の項目では、「子どもの満足度」「戸外遊び」「おもちゃや教材」「園外活動」「友だちや保育者との関わり」の各設問については、95%前後の満足度です。“土いじりや泥んこ遊び、公園への散歩など外遊びを十分してくれて満足”という声が多数ありました。

「生活」の項目では、「給食の献立内容」「給食を楽しんでいるか」はそれぞれ満足度が98%と94%です。“とても良い”という声が多くあります。「昼寝などの子どもの状況に応じた対応」や「体調への気配り」は90%前後の満足度です。「基本的な生活習慣の自立への取り組み」「ケガへの対応」の満足度は80%弱でした。“ちょっとしたケガでも報告してもらえ、ありがたい”という声の一方で、“保護者への説明が足りないときがある”という意見もあります。「おむつはずし」については、“経験なし”という理由で「その他」回答が22%あるため、満足度が64%でした。

【問5】快適さや安全対策などについて

「施設設備」の満足度は、87%です。“改築して木のテラスになったのは良い”という声があります。「子どもが落ち着いて過ごせる雰囲気」「感染症」についても90%以上の満足度があります。「外部からの不審者侵入を防ぐ対策」は満足度58%、不満が35%あります。

【問6】園と保護者との連携・交流について

すべての項目で満足度が83%以上で、「園からの情報提供」は98%という高い満足度です。「子どもに関する重要な情報の連絡体制」は83%で、「懇談会や個別面談による話し合い」は85%です。

【問7】職員の対応について

「アレルギーや障がいのある子どもへの配慮」は、“わからない”“まわりにいない”という理由で「その他」「無回答」が合わせて19%になり、満足度が77%ですが、それ以外の項目はすべて満足度が90%台です。“一生懸命対応してくれ、子どもとの信頼関係もしっかり築かれていて、安心して預けられる”という声が多数ある一方、“職員により、多少対応が異なる”という意見もあります。

【問8】保育園を総合的に評価すると

満足度は92%です。

【問9】園への要望など

“保護者と先生との交流の場や、保育参観の日をもっと作ってほしい”“学校へ向けての準備的なことを増やしてほしい”“鼻水など健康衛生面に気を配ってほしい”“しつけをもっと厳しくしてもいい”“一人の保護者の意見でも取り入れてほしい”などの意見がありましたが、“民間移管で不安があったが、心配は不要だった”“とても満足”“とてもありがたい”“これからもバオバブらしい取り組みを”という声もあがっています。

まとめ

- ◇ 98%の高い満足度があったのは、「給食の献立内容」「園だよりや掲示による園からの情報提供」です。それに次ぐ96%は、「遊びについて子どもが満足しているか」「戸外遊びが十分か」「子どもが大切にされているか」「職員が話しやすい雰囲気、態度であるか」です。
- ◇ 一方、不満が35%あったのが「外部からの不審者侵入を防ぐ対策」です。
- ◇ 民間移管の時には不安もあった保護者を含めて、現在の園に対する総合的な満足度は92%となっています。

利用者（園児） 家族アンケート集計結果

実施期間： 2008年 9月16日～9月29日

回収率： 59.1% （回収52枚／配布88枚）

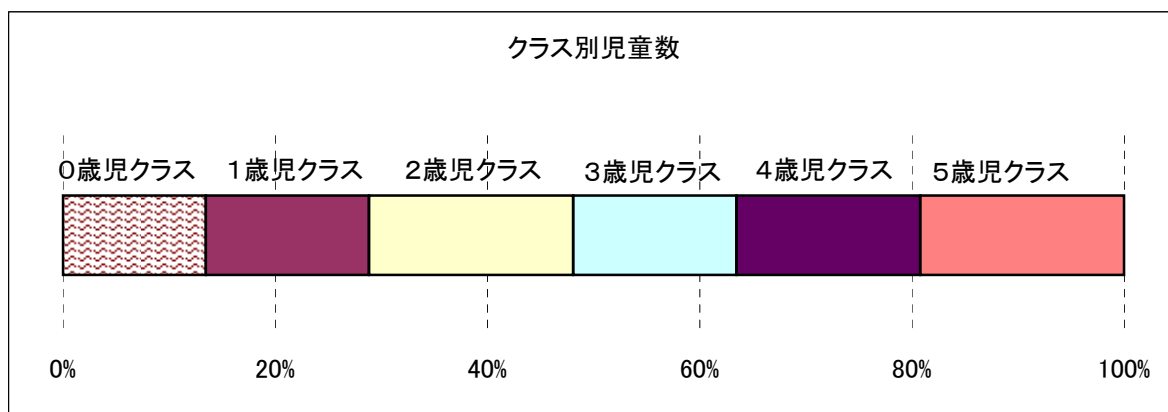
【属性】

クラス別児童数

(人)

合計	0歳児クラス	1歳児クラス	2歳児クラス	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス	無回答
52	7	8	10	8	9	10	0

※同一家族で複数名が園に在籍の場合は、下の子どものクラスで記入



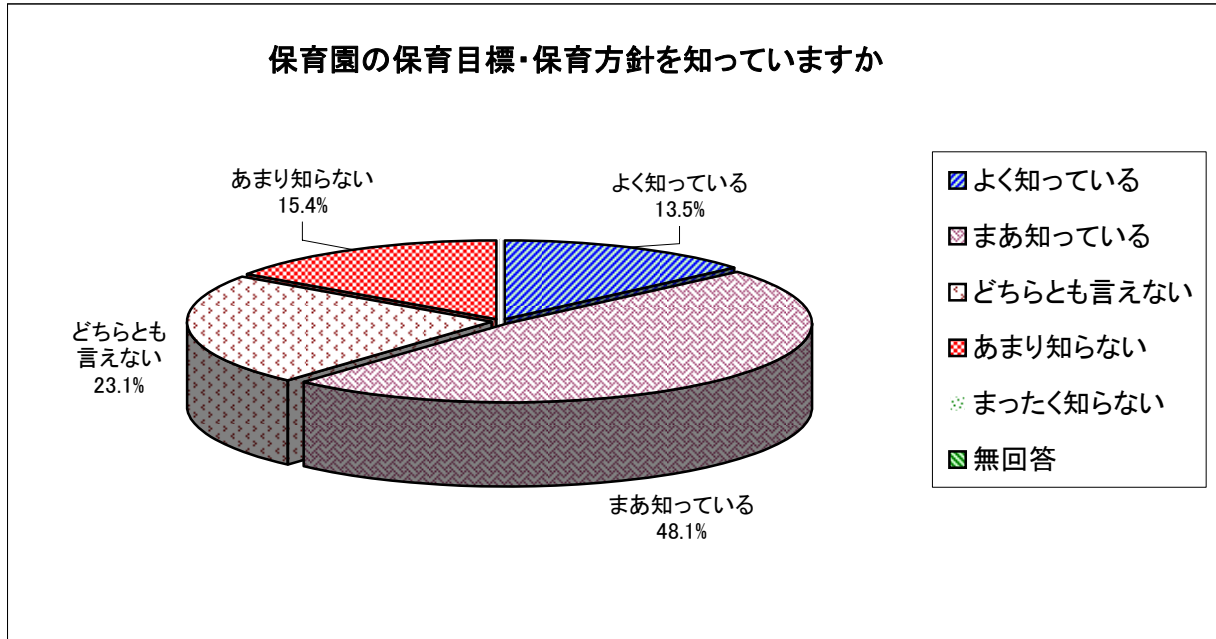
■ 保育園の基本理念や基本方針について

問1: 保育園の保育目標や保育方針を知っていますか

(%)

問1:	よく知っている	まあ知っている	どちらとも言えない	あまり知らない	まったく知らない	無回答	計
あなたは、この園の保育目標・保育方針をご存じですか	13.5	48.1	23.1	15.4	0.0	0.0	100

(%は小数第1位まで表示し、合計の小数第1位を四捨五入すると100%になります。)

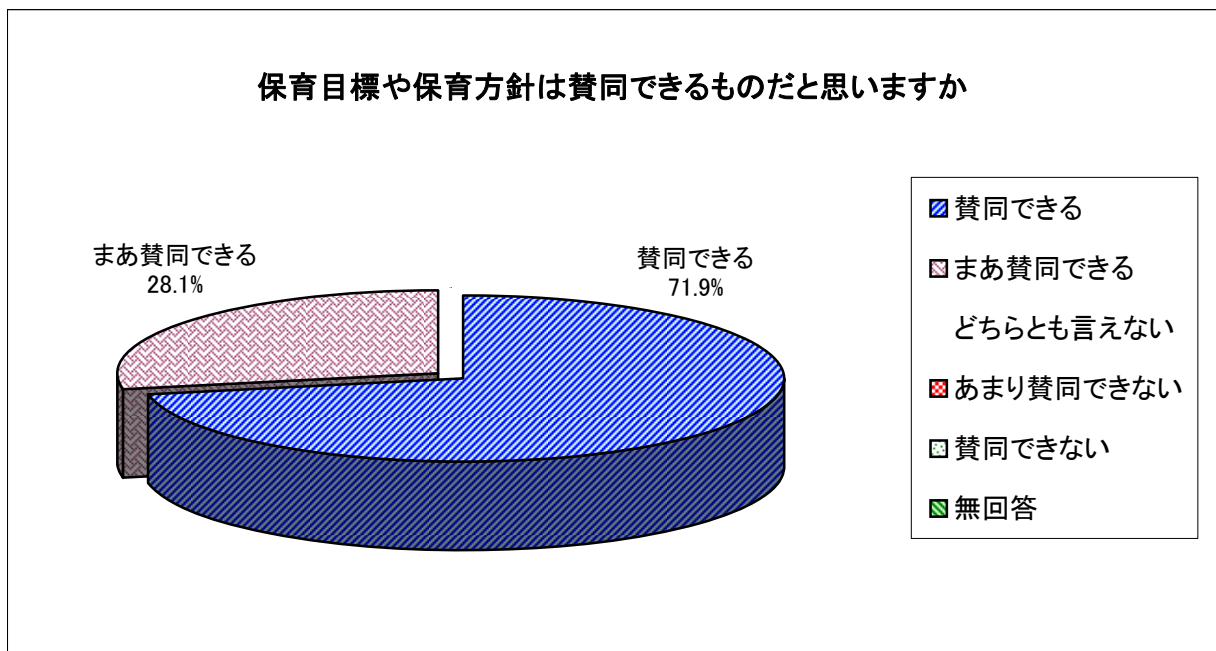


「よく知っている」「まあ知っている」と答えた方への付問

付問1: その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか

(%)

付問1:	賛同できる	まあ賛同できる	どちらとも言えない	あまり賛同できない	賛同できない	無回答	計
あなたは、その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか	71.9	28.1	0.0	0.0	0.0	0.0	100



■ 保育園のサービス内容について

問2 入園時の状況について

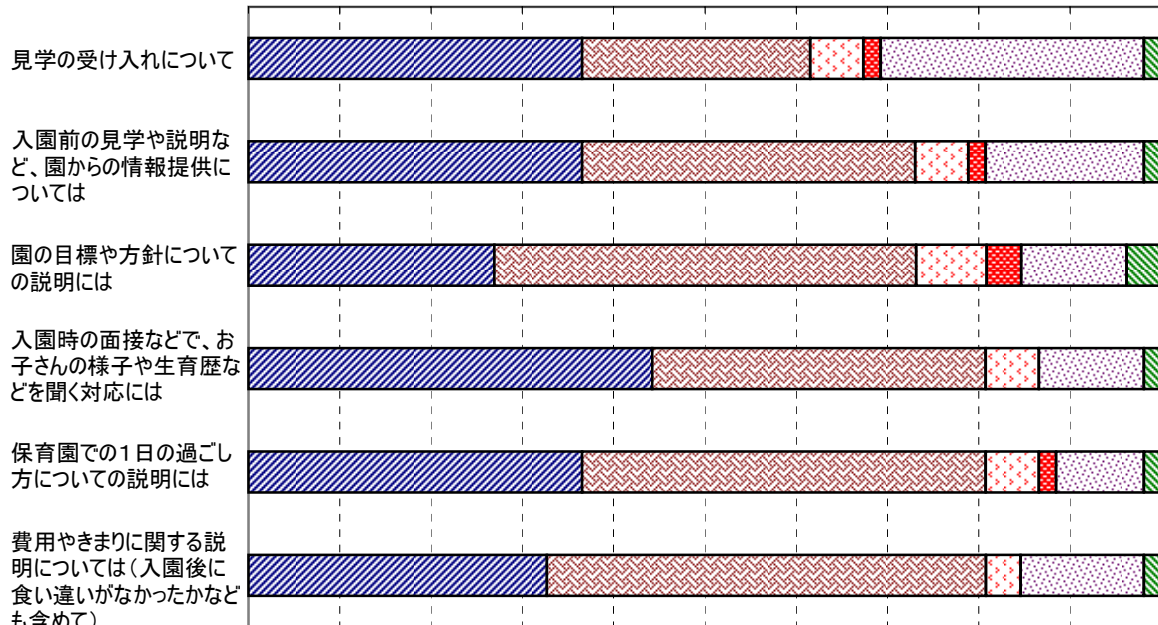
(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
見学の受け入れについて	36.5	25.0	5.8	1.9	28.8	1.9	100
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	36.5	36.5	5.8	1.9	17.3	1.9	100
園の目標や方針についての説明には	26.9	46.2	7.7	3.8	11.5	3.8	100
入園時の面接などで、お子さんの様子や生育歴などを聞く対応には	44.2	36.5	5.8	0.0	11.5	1.9	100
保育園での1日の過ごし方についての説明には	36.5	44.2	5.8	1.9	9.6	1.9	100
費用やきまりに関する説明については(入園後に食い違いがなかったかなども含めて)	32.7	48.1	3.8	0.0	13.5	1.9	100

入園時の状況について

■ 満足 ■ どちらかといえば満足 □ どちらかといえば不満 ■ 不満 □ その他 ■ 無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



問3 年間の計画について

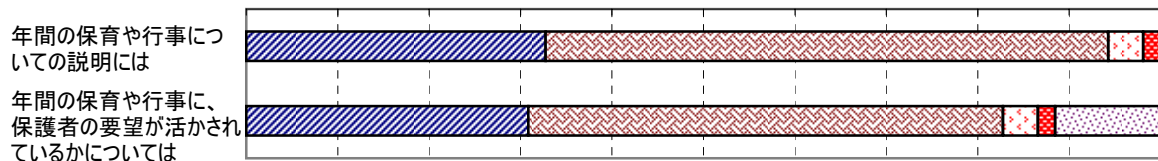
(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
年間の保育や行事についての説明には	32.7	61.5	3.8	1.9	0.0	0.0	100
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	30.8	51.9	3.8	1.9	11.5	0.0	100

年間の計画について

■ 満足 ■ どちらかといえば満足 □ どちらかといえば不満 ■ 不満 □ その他 ■ 無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



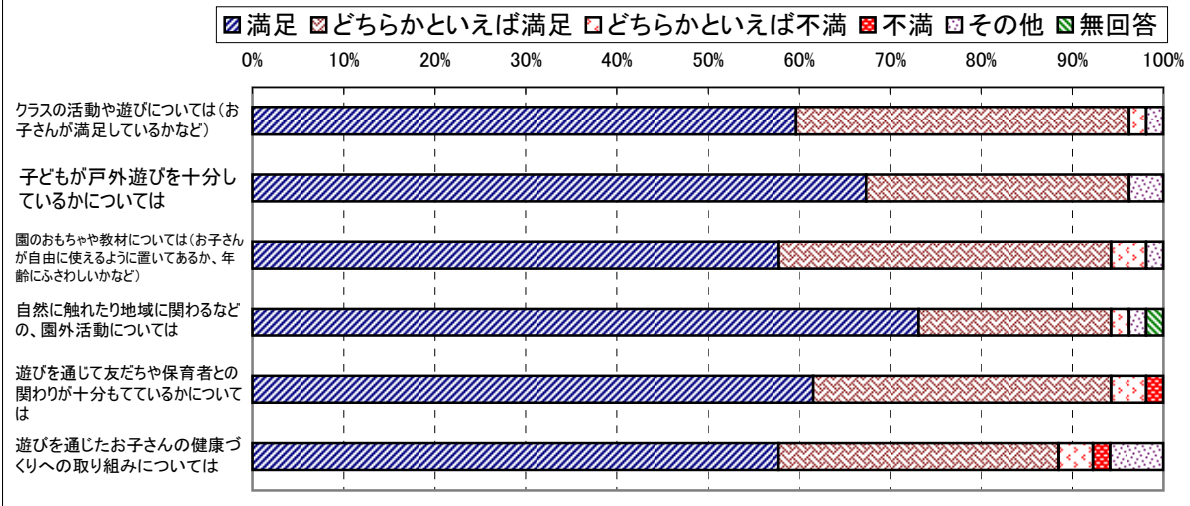
問4 日常の保育内容について

(%)

●「遊び」について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
クラスの活動や遊びについては(お子さんが満足しているかなど)	59.6	36.5	1.9	0.0	1.9	0.0	100
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	67.3	28.8	0.0	0.0	3.8	0.0	100
園のおもちゃや教材については(お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	57.7	36.5	3.8	0.0	1.9	0.0	100
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	73.1	21.2	1.9	0.0	1.9	1.9	100
遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もっているかについては	61.5	32.7	3.8	1.9	0.0	0.0	100
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	57.7	30.8	3.8	1.9	5.8	0.0	100

日常の保育内容「遊び」について

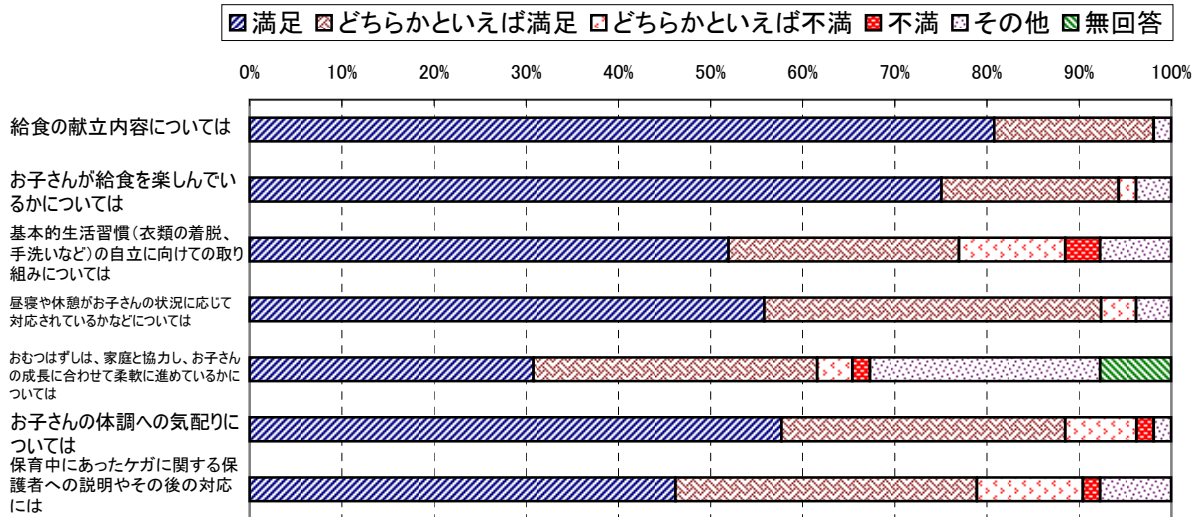


(%)

●「生活」について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
給食の献立内容については	80.8	17.3	0.0	0.0	1.9	0.0	100
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	75.0	19.2	1.9	0.0	3.8	0.0	100
基本的な生活習慣(衣類の着脱、手洗いなど)の自立に向けての取り組みについては	51.9	25.0	11.5	3.8	7.7	0.0	100
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	55.8	36.5	3.8	0.0	3.8	0.0	100
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	30.8	30.8	3.8	1.9	25.0	7.7	100
お子さんの体調への気配りについては	57.7	30.8	7.7	1.9	1.9	0.0	100
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	46.2	32.7	11.5	1.9	7.7	0.0	100

日常の保育内容「生活」について



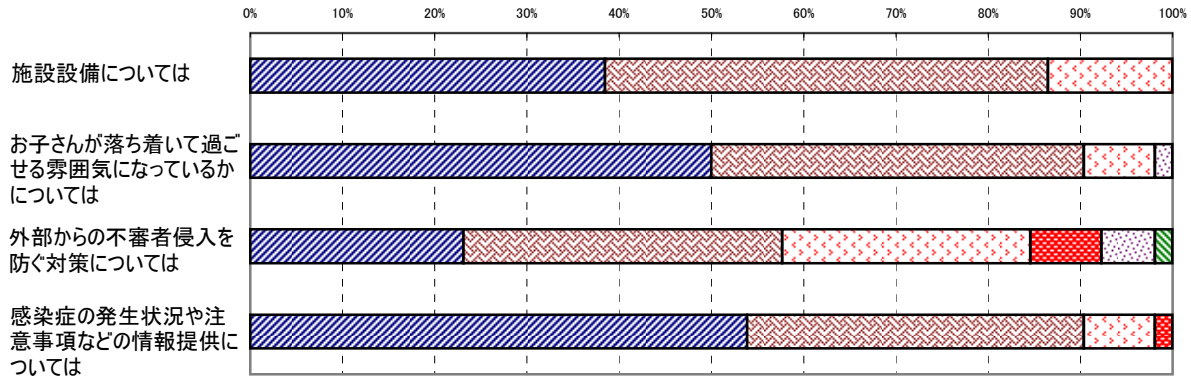
問5 快適さや安全対策などについて

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
施設設備については	38.5	48.1	13.5	0.0	0.0	0.0	100
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気になっているかについては	50.0	40.4	7.7	0.0	1.9	0.0	100
外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	23.1	34.6	26.9	7.7	5.8	1.9	100
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	53.8	36.5	7.7	1.9	0.0	0.0	100

快適さや安全対策などについて

■満足 ■どちらかといえば満足 ■どちらかといえば不満 ■不満 ■その他 ■無回答



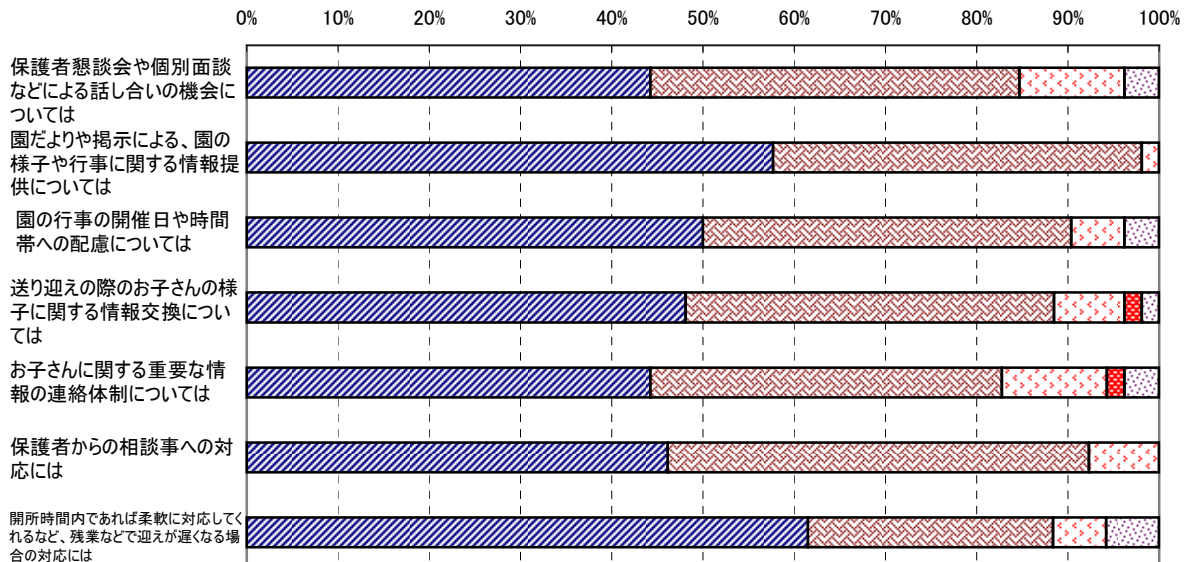
問6 園と保護者との連携・交流について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	44.2	40.4	11.5	0.0	3.8	0.0	100
園だよりや掲示による、園の様子や行事に関する情報提供については	57.7	40.4	1.9	0.0	0.0	0.0	100
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	50.0	40.4	5.8	0.0	3.8	0.0	100
送り迎えの際のお子さんの様子に関する情報交換については	48.1	40.4	7.7	1.9	1.9	0.0	100
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	44.2	38.5	11.5	1.9	3.8	0.0	100
保護者からの相談事への対応には	46.2	46.2	7.7	0.0	0.0	0.0	100
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	61.5	26.9	5.8	0.0	5.8	0.0	100

園と保護者との連携・交流について

■満足 ■どちらかといえば満足 ■どちらかといえば不満 ■不満 ■その他 ■無回答



問7 職員の対応について

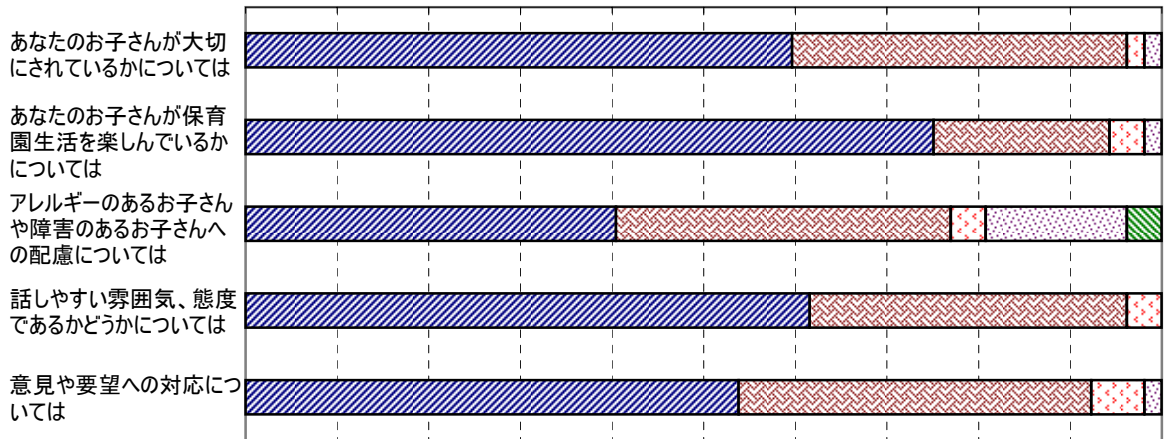
(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
あなたのお子さんが大切にされているかについては	59.6	36.5	1.9	0.0	1.9	0.0	100
あなたのお子さんが保育園生活を楽しくしているかについては	75.0	19.2	3.8	0.0	1.9	0.0	100
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	40.4	36.5	3.8	0.0	15.4	3.8	100
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	61.5	34.6	3.8	0.0	0.0	0.0	100
意見や要望への対応については	53.8	38.5	5.8	0.0	1.9	0.0	100

職員の対応について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

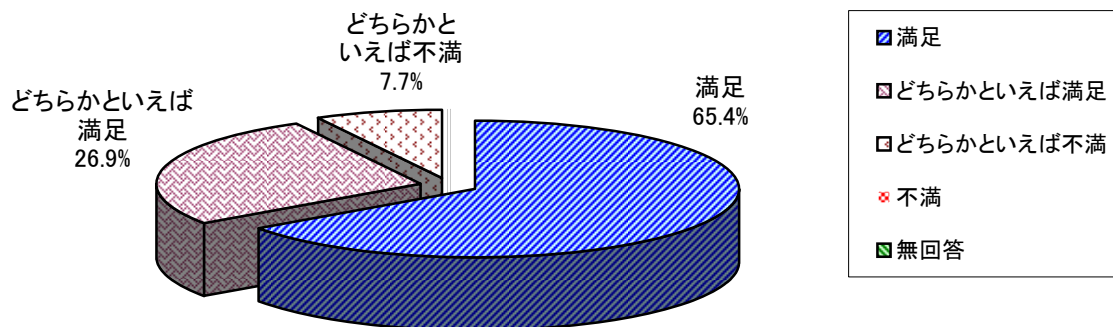


問8 保育園を総合的に評価すると

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答	計
総合満足度は	65.4	26.9	7.7	0.0	0.0	100

総合満足度



利用者（園児）本人調査 分析

観察調査 10月31日（金）9:00～18:00 11月7日（金）7:30～13:00

観察中、幼児を中心に、会話の中で適宜聞き取りを行いました。

0歳児クラス

部屋は、遊ぶところ、食事をするところ、おむつを替えるところ、寝るところの4つに分かれ、月齢に応じて、遊び、食事、睡眠を十分とることができます。

月齢の低い子どもには寝たまま座ったままで遊べるおもちゃ、動き回る子どもには部屋の中に手作りの階段やすべり台があります。園庭が見渡せる広いテラスには窓から出入りができ、大きい園児たちの遊んでいる姿を見たり、話しかけられたりします。月齢の高い子どもたちは、1歳児のクラスに遊びに行ったり、全クラス合同の誕生会に参加したりして、大きい園児から刺激を受けています。

ミルクは保育士にしっかり抱っこされて与えられます。離乳食は家庭と相談しながら進めていき、月齢に応じて少人数のグループで食べます。子どもは、保育士の援助を受けながら、いすに座って自分で食べようとしています。1歳になれば、骨付きの小魚も頭ごと食べます。

1歳児クラス

自分や家族、好きな物の写真や絵を貼ったそれぞれの子ども専用の手作り絵本があり、心の拠り所となっています。大事そうに見せてくれました。

本物の鍋やフライパン、五徳を使ったままごと遊びのときは、ペットボトルやミルクの缶で職員に作ってもらった手作りおもちゃが大活躍です。

散歩では、公園の森の小高い丘を登って、ドングリや草の実をとったり、バッタ、だんご虫などをつかまえたり、葉っぱに触ったり、花を見たり、小川の淵を歩いたり、自然と触れ合っています。植物や虫の名前もよく知っています。行き帰りには、近所の人にあいさつをし、走る車を橋の上から眺め、高齢者のグラウンドボールを見物します。帰りは疲れるけれど、頑張って歩きました。

園庭では、三輪車が上手になり、勢いあまってぶつかるほど元気に遊びます。砂場や小屋でのままごと大好好きです。

◆ 2歳児クラス

食事のときも遊ぶときも、みんなよくしゃべります。しゃべり出したら止まらない子どももいます。食事は木のお椀を使うようになり、お箸が上手に持てる子どももいます。

部屋の中では、牛乳パックや箱のできた手作りおもちゃを、自由な発想のもとに使って遊びます。4歳児クラスにお邪魔して、絵の具で絵をかくこともしました。

ホールでは、跳び箱、マット、バランスボールを使って跳び回り、ピアノにあわせて歌ったり踊ったりし、保育士が風船をふくらませてくれるのが待ち遠しいくらい、元気に遊びます。

寝るときには、自分の宝物を布団の下にしまえます。手作り絵本も自慢です。

排泄の間隔があいてくると、保護者と相談しながらトイレトレーニングを始めます。散歩や食事、午睡の前などに声かけされ、上手にできたら褒めてもらいます。

◆ 3歳児クラス

棚の下のスペースは心落ち着ける場所です。友だち数人や一人で入り込んで遊んでいます。

畑で作ったミニ大根やラディッシュを収穫して、洗って食べました。自分たちで育てたものは、多少辛く

ても「おいしい!」のです。半分はゆでももらいました。

また、芋掘りで掘ってきたサツマイモを洗って、みんなの前で一人ひとりピーラーを使って皮をむきました。「上手にできたね。」と褒めてもらいます。やりたくない子どもには強制することはありません。ホットプレートで焼いて食べました。「他のクラスにもお裾分けしよう。」「食いしん坊の(園長の) さんにも持って行こう。」という声が自然に出てきました。あまりにもおいしくておかわりしていたら、乳児さんに分ける分はなくなってしまいました。

4 歳児クラス

自分のはさみを持つようになって工作をしたがり、ハロウィーンのお面作りも子どもたちの提案です。終わったあとは、自分の宝箱にしまいます。

職員手作りのスカートやドレスを着れば、たちまちお母さんやお姫様になれます。男の子も女の子もごっこ遊びが大好きなようです。

お店やさんごっこが発展した「とんぼレストラン」をして、他のクラスの子どもたちに来てもらいました。「お金」や「財布」も作り、ハイチュー屋さん、ミスタードーナツ屋さんなど自分たちで考えました。

給食当番、水やり当番も、責任を持ってできるようになりました。給食当番は外で遊んでいてもみんなより早く帰り、みんなの分も上手によそっていました。食べる量も増えてきて、おかわりは何回もします。

5 歳児クラス

園庭では、思い思いに好きなことをして遊びます。竹の棒をさして登りやすくした木に木登りするときや、大きな木にロープを結んだブランコに乗るとき、高い方のすべり台をするときは、保育士が見ているときだけという約束を守り、順番にならんで待ちます。山砂を使い、毎日掘り返してもらっている砂場では、池を作るなどして、素足で泥だらけになる子どももいます。先に小さいクラスの子どもたちが帰ったあと、ほかの子どもたちの遊んだ分も進んで片付けます。

今年は、お泊まり保育、バスに乗っての遠出など初めての経験をしました。不安がって「休みたい」と言っていた子どもも、キャンプファイヤー、中庭での温泉風特設風呂などを楽しんでいるうちにすっかり自信がついて、いい思い出ができました。

子どもたちは、ゲームをしたり食事をしたりする中で、ペースが合わない友達を待ってあげることもできます。

まとめ

園の周囲は遊歩道が整備され公園も多く、子どもたちは散歩に行くと自然と触れ合っています。

園庭で遊ぶときも帽子をかぶり、思い思いに好きなことをします。卒園児が卒園制作で作って置いてくれた小屋や木の長い箱を使って、遊びも広がります。

園の花壇を野菜畑に変えて、ホウレンソウ、ミニ大根などを植えています。子どもたちが水やりをし、収穫したものは、特別に「おいしい」そうです。

屋内では、グループに分かれて、別の部屋に遊びに行ったり、ホールで遊んだりして、延長保育のとき以外にも異年齢で遊びます。

月に1回の全園の誕生会はホールを使い、呼ばれた子どもが前に出て、みんなに歌を歌ってもらいロースクの灯を消します。晴れがましいけれど、ちょっと照れくさい顔をしています。誕生日には、クラスでも誕生会をしてもらえます。

保育士がゆったりと接してくれ、子どもたちは自由にのびのびと過ごしています。一人ひとり大事にされていると思えるからこそ、年長になるに従い、ほかの子どもを思いやることもできるのでしょう。

事業者コメント

全てにおいて全職員が共通の認識の基に保育の展開や安全管理、運営をしていく・・・評価資料を一つ一つ確認する中で考え込んでしまう箇所や悩む箇所がたくさんあり判断に迷いました。そんな中でも曖昧さや不足している部分が明確にされたのはとてもよかったです。一方で自分たちが大事にしてきた食や保育内容は保護者・職員共に共有されている事がわかりほっとしました。

この度、第三者評価を受けてわかった「この園の良さ」と「様々な課題」を真摯に受け止め、よりよい保育を全職員で創っていきたいと思いました。

(園長 浜谷 幸子)

今回、評価を自己と第三者からの視点で受けてみてある項目では自信をもって「A」と判断できても、ある項目では職員全員が意識しているかといえは考えてしまう項目もありました。

厳しく判断してしまったかな、と思う点もあったのが正直なところです。項目についての確認の話し合いの場を正規職員、非常勤職員でもつことで、『厳しく判断してしまったのはこのような確認の時間を求めているのかもしれない』と思いました。自分が総務という立場で保育を客観的にみることができた一年。この第三者評価で保育園としてプラスした方がよい視点や、また自信をもって大事にしている点、両方がみえたように思います。第三者評価が終わってからも、気がついた課題を意識して今後も取り組んでいきたいと思いました。

霧が丘の保育にあわせ、保育をする仲間と共に子ども達のためによりよいものを創っていきたいと思いました。

(総務[フリー&事務] 溝口 裕子)

『第三者評価』というものは自分たちの行っている保育や園に甲乙をつけるものではないということは理解していましたが、実際に受けてみて、ひとつひとつ項目について考え、評価し文章化することで、自分自身がわかっているつもり、やっているつもりが実は曖昧だったりA評価にはできなかつたりする現実がありました。日々の保育や業務の中で、職員や非常勤職員の視点だけでは画一的になっている部分も多くあったのだと思います。今、自分自身や組織としての機能、保育の場としての構造において、何が足りないのか、何を維持していけばよいのかを客観的に見つめなおせるよい機会になりました。

(0歳児担任及び保健担当 山口 円)

第三者評価を受けたことによって、さまざまな視点から保育を振り返る良い機会となりました。

3年間の月日の中で子どもを中心に、子どもに関わるおとなたち(保護者・保育者・子どもに関わるすべての人)で、繰り返し子どもたちの成長について話し合ってきたことが、今、子どもたちがそれぞれの育ちのなかで、それぞれに成長できることにつながっているのだなと感じました。子どもたちの成長をこんなにも話し合える関係になれたことをとても嬉しく思います。

子どもに関わる大人同士、子どもたちについて真剣に語り合える環境が作られていくにしたがって、子どもたちの表情もますます素敵な笑顔になっていったことが鮮明に蘇りました。

子どもたちは、行きつ戻りつしながら、ゆっくりと成長していきます。その姿を、保護者とともに楽しみな

がら保育できることは、子どもにとってとても良い環境だなと改めて感じることができました。

これからも、協力しあって、子どもたちの成長に寄り添い向き合っていきたいと思います。改めて、保育の土台となっていく大切なことを振り返ることができ、本当によかったと思いました。

(1歳児担任 佐藤 梨沙)

「第三者評価を受ける」 民間移管されて3年が経とうとしている中でこの話しを聞かされました。「第三者」「評価」という言葉から、全く知らない人達に自分達の保育を評価されるの？ 至らないところが多くあったらどうしよう？ と思い漠然と心配になりました。しかし、実際に受けてみてその思いは私の思い違いだったことに気が付きました。

ひとつひとつの自己評価にじっくりと向き合う中で、移管後の月日は本当にあっという間で、ひとつひとつのことを全職員(正規職員、非常勤職員)で確認する時間もないまま日々過ぎていたな、と改めて感じさせられました。そしてこの機会があったからこそこれまでの毎日を共に省み、確認し合えました。気付きのあったところは今後しっかり話し合いをし、さらに豊かな保育が営めるようつなげていきたいと思います。私達職員も日々精進。子ども達と共に、そして保護者の方と共に。毎日進むばかりではありません。時に立ち止まったり時に振り返ったりしながら、うまくいかない時はどうしたらいいかな？ と共に考え、一步ずつ前へ。それが保育にとっても大切な 共に育つ ということだと私は考えます。今回第三者評価を体験し、子どもたちからのひとはもちろん、保護者の方からのひとは、そして現場の職員からのひとはを丁寧に受け止めながら毎日を過ごしていきたいと改めて感じました。

(2歳児担任 柿本 由子)

民営化されて3年目、今回の第三者評価は自分たちの保育を見直し冷静に評価するきっかけになりました。また様々な視点からの評価は自信にもなりましたが、新たな問題提起でもありました。職員間の領域別自己評価も捉え方に温度差はありましたが、具体的な課題が出来たと前向きに考えたいと思います。そして色々な課題にも柔軟に取り組み対応していきたいと思います。大切にしたい事をみんなで話し合い共有し、その積み重ねが豊かな保育につながると思います。

色々な考え方や価値観はありますが、それぞれがバオバブ霧が丘保育園の大人として保育の理念や目標を根っこに置き共に成長していきたい、そして気持ちも新たに保護者の方と共に子ども達の育ちを見守っていききたいと思います。

(3歳児担任 高木 順子)

初めての体験だったので、はじまる前は、どんな事をするのだろう？ と、少しどきどきしましたが、「他の人たちから評価される」という事よりも、「自分たちの保育を改めて見直す」いい機会になったのではないかと思います。「保育」と一言でいっても、その中身はいろいろなものが含まれており、それら一つ一つを、個人でじっくり考えてみたり、全体で確認することは、普段過ごしている中では、なかなか出来ない事なので、とても有意義な経験だったと思います。また、たくさんのチェック項目の中には、自分の中で、あまり意識していなかった項目なども入っており、「こういう部分も大事だなあ」と、改めて思いなおす事も出来ました。今回の経験を踏まえて、子どもたち、保護者の皆様と共に、より良い保育を目指すべく、さらに努力していきたいと思います。ありがとうございました。

(4歳児担任 寺澤 裕子)

民間移管を受けてから3年が経とうとしています。公立からの引き継ぎ期間を経て、新年度が始まった時には、移管を受けることが初めてだったので、これからどうなっていくのかがはっきり見えないまま、手探りの状態で毎日が無事に過ぎていってほしいと願う日々でした。保護者の方々は心配や不安があったに違いありません。子ども達の中にも不安な表情を見せる姿がありました。そのような中で、私たち職員は、まずは子ども達が保育園に来ることが楽しいと思えるような保育を考え、行うように心がけました。そして、保護者の方々にはどんな些細な事でも、初めにお知らせしてから行うようにしてきました。そして、2年間が経ち今にして思えばあっという間に過ぎたようにも感じられます。

今回、第三者評価を受けて、まだまだ不十分な面を再認識でき、自分達の保育を見つめなおすいい機会になったように思います。職員間でも認識に違いがあったり、伝えているつもりでも伝わっていなかった点なども浮き彫りになったりと、これからの課題もはっきりしてきましたので、今回の評価を今後に活かしていきながら、安全でよりよい保育を展開し、保護者の方々にも安心してお子さんを預けていただけるように、励んでいきたいと思っています。

(5歳児担任 池成 政巳)

評価項目を項目ごとに分けてグループ討議を行ったことにより、今まで特に意識していなかった事項も再認識することができました。また、さらに良い改善策はないか皆で意見を出し合ったことなどにより、『もっと良い保育をしていこう!』という意識が皆高まったように感じました。またB評価となるところは、職員全員に周知されているとは言いがたいという理由によるものが多かったので、今後は非常勤職員も含め、保育について全員での話し合いの場を設けていくことも必要なのではと思いました。また、私は栄養士なので直接保育に関わることは少ないが、この評価を受けることで、自分の子どもとの関わり方などの改善点などにも気付くことができました。食についての保護者の満足度も高かったことで、栄養士として今までやってきたことを再確認することができ、今後もさらに子どものことを第一優先に考えた食事作りに取り組んでいこうと、自分の中での目標がたてられたことも良かったと感じました。

(栄養士 江口 未来子)

～ 評価結果は、下記のウェブサイトからも見るができます ～

市民セクターよこはまの第三者評価のページ

<http://www.shimin-sector.jp/hyouka/>

横浜市(健康福祉局)の福祉サービス第三者評価のページ

<http://cgi.city.yokohama.jp/kenkou/jigyousyajoho/hyoukaall.cgi>

かながわ福祉サービス第三者評価推進機構のページ

<http://www.k-daisansyahyouka.org/>

特定非営利活動法人



特定非営利活動法人

市民セクターよこはま 評価事業部

かながわ福祉サービス第三者評価認証機関 第4号

横浜市福祉サービス第三者評価指定機関 第4号

〒231-0013 横浜市中区住吉町二丁目 26 番地 洋服会館 2 階

TEL:045-222-6501

FAX:045-222-6502

<http://www.shimin-sector.jp>
